

北前船の歴史的意義と魅力

—北前船遺産を活かした地域振興の可能性—

2021年7月10日（土）於:リージョンプラザ上越コンサートホール
高野宏康（小樽商科大学グローバル戦略推進センター）

講演内容

1. はじめに
2. 北前船の歴史的意義と魅力
3. 北前船遺産を活かした地域振興の可能性
4. まとめ

はじめに

【出身地・研究分野】

- 石川県加賀市橋立町。曾祖父以前は北前船の船乗り。
- 研究分野: 近現代史、地域資源論、北前船学
歴史文化の調査研究と観光資源化

【主な活動】

- 授業: 地域志向型授業(社会連携実践、日本経済史など)
- 歴史文化関連の地域連携(日本遺産関連事業など)

- ★全国各地の北前船寄港地・船主集落の調査研究
- ★北前船遺産を活かした地域活性化事業

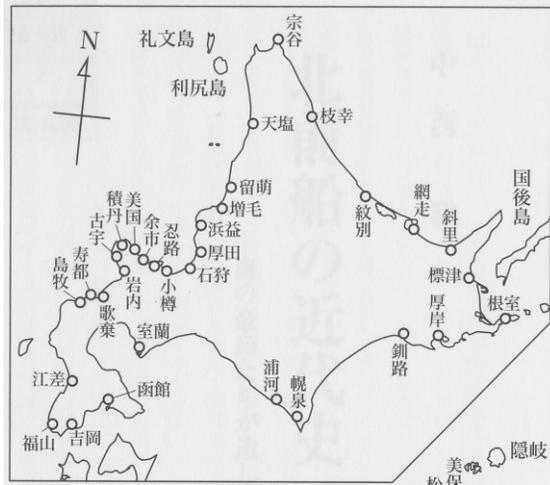
3

主な地域活動

- 小樽市北前船日本遺産を活用したwithコロナ期対応型イベント実行委員会
事業推進ディレクター(観光庁誘客多角化事業)
- 北前船子ども洋上セミナー小樽実行委員会事務局長
- NPO法人歴史文化研究所代表理事
- 小樽市日本遺産推進協議会ストーリー検討部会WG委員
- 小樽市歴史文化基本構想策定委員会調査部会長
- 小樽の歴史と自然を生かしたまちづくり景観審議会委員
- 北海道遺産(第3次)審査委員
- 小樽市観光基本計画(第2次)アドバイザー
- 小樽地域雇用創造協議会アドバイザー
- おたる案内人マイスター(観光ガイド)
- 小樽朝里まち育て「結」審査員(まちづくり助成事業)
- 塩谷桃内まちづくり推進委員会顧問
- 小樽梁川商店街活性化委員会委員(商店街振興)
- 択捉島水産会理事



北海道の主な北前船寄港地



出典: 中西聡『北前船の近代史』(2013年)

道南、日本海沿岸
だけでなく、**全道**に
北前船が寄港。

日本遺産「北前船寄港地・船主集落」(16道府県48市町)



- ・北海道(松前町、函館市、**小樽市**、石狩市)④
- ・青森県(鯨ヶ沢町、深浦町、野辺地町)③
- ・秋田県(能代町、男鹿市、秋田市、由利本荘市、にかほ市)⑤
- ・山形県(酒田市、鶴岡市)②
- ・新潟県
(佐渡市、新潟市、長岡市、出雲崎町、**上越市**)⑤
- ・富山県(富山市、高岡市)②
- ・石川県(輪島市、志賀町、金沢市、白山市、小松市、加賀市)⑥
- ・福井県(坂井市、南越前町、敦賀市、小浜市)④
- ・京都府(宮津市)①
- ・大阪府(大阪市、泉佐野市)②
- ・兵庫県(新温泉町、神戸市、洲本市、高砂市、姫路市、たつの市、赤穂市)⑦
- ・岡山県(倉敷市)①
- ・広島県(尾道市、竹原市、呉市)③
- ・香川県(多度津町)①
- ・鳥取県(鳥取市)①
- ・島根県(浜田市)①

様々な北前船寄港地



『北海道の歴史文化を巡る旅』(国土交通省北海道開発局、2016年)

北前船の主な寄港地(天領出雲崎時代館)



北前船の主な寄港地(苫小牧市美術博物館)



(1)「北前船」とは何か？

- 江戸期から明治後期にかけて、主に蝦夷地(北海道)と、上方(関西方面)を往来した廻船。
- 船主自身が商品を販売する「買積み」経営が中心。商業と輸送業を兼業する商人船主が多い。
- 地域間の価格差を利用して莫大な利益。難船のリスクと表裏一体。ハイリスク・ハイリターン。

★「一攫千金」のロマンの魅力

★各地の産物の流通、人の移動、文化の伝播に大きな役割を果たす。北海道のルーツに関わる。

★北前船をめぐる様々な誤解(呼称、船主、活動範囲・時期)

北前船の積荷

- 下り荷(北海道へ) * 生活物資中心

大阪 →木綿・酒・糸・雑貨など

瀬戸内海 →塩・紙・竹・砂糖・生蠟、御影石など

小浜・敦賀 →縄・ワラ製品・瓦・笏谷石など

富山・新潟 →米・酒など

- 上り荷(関西方面へ)

- * 海産物中心

鯨粕、数の子、身欠き鯨

昆布、干しナマコ、干鰯 など

北前船前史

古代: 瀬戸内海～日本海。古くから交易ルートが存在。

中世: 「三津七湊」(貞応の廻船式目)

越前の三国、加賀の本吉、能登の輪島、越中の岩瀬、
越後の今町、出羽の秋田、津軽の十三湊が含まれる。

→日本海沿岸の廻船の活発化。

近世: **西廻り航路の整備**。寛文12(1672)年、**河村瑞賢**が整備。酒田(山形県)が起点。年貢米を日本海経由で下関から瀬戸内海を経て大坂へ運ぶルート。

→敦賀で陸揚げするより海路が便利。

北前船の登場

蝦夷地(北海道)のニシンの需要

- 蝦夷地でニシン漁が発達。延宝元(1673)年、越後荒浜の牧口庄三郎が内地漁法を伝える。
- 西日本における米、綿、藍、菜種などの魚肥需要が増大。蝦夷地のニシン搾粕、ニシンメ粕が利用。

近江商人の蝦夷地進出

- 18世紀初頭、場所請負制が成立。近江商人等が蝦夷地に進出。荷所船で内地へニシン等の海産物を運ぶ。
- 蝦夷地と若狭・敦賀を結ぶ荷所船と西廻り航路が結合。蝦夷地一東北・北陸一大坂間に民間物資を運ぶ北前航路が完成。
- 蝦夷地に様々な商人が進出。近江商人の独占が崩れる。近江商人に雇用されていた北陸の船乗りたちが自立して船主に。北前船の登場。

★北陸出身の船主を北前船主と見做す考え方(牧野隆信)

★近年、様々な地域に多様な北前船・北前船主が存在したことが指摘。

「北前船」概念の拡大

- 昭和59(1984)年、北前船研究を主導していた、牧野隆信氏らが石川県加賀市で北前船セミナーを開催。
- 昭和61(1986)年、高田屋嘉兵衛「辰悦丸」回航事業。メディアで全国的な話題に。「北前船」の呼称が普及する契機。
- 北前船主の出身地は北陸のみではないという指摘。山陰地方の船主など、様々なタイプの船主の存在(柚木学氏)。
- 船主の出身地、船の形状、経営形態、航路など、多様な「北前船」のあり方を考慮する必要性。

★本州・四国・九州などに拠点を持ち、18～19世紀に北海道へ進出した商人船主の船(中西聡氏)。

北前船関連出版物(北海道・東北)



小樽市(1978年)



石狩市(1992年)



石狩市(2019年)



函館市(1998年)



酒田市(1992年)



酒田市(1985年)



鶴岡市(1966年)



秋田市(2005年)

北前船関連出版物(石川県)



輪島市(2017年)



志賀町(2004年)



白山市(2014年)



金沢市(2001年)



加賀市(1992年)



加賀市(1985年)

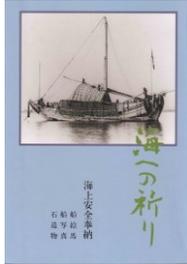


加賀市(2002年)



加賀市(2006年)

北前船関連出版物(福井県南越前町)



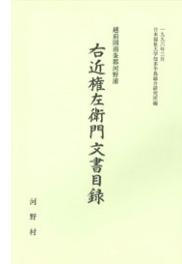
南越前町(1991年)



南越前町(1993年)

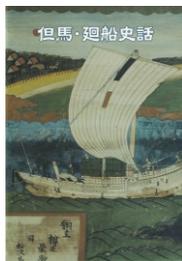


南越前町(2020年)



南越前町(1996年)

北前船関連出版物(山陰・瀬戸内海)



新温泉町(2002年)



尾道市(2014年)



倉敷市(1992年)



多度津町(2011年)

展示図録



大新潟湊展

新潟市(2014年)



上越市(2020年)



宮津市(2015年)

23

坂越(赤穂市)の「北前船」と「塩廻船」

1445年 兵庫北関入船納帳に、坂越とその周辺には海上運送で生計を立てている組織があったと記載。

17世紀後半 奥藤、大西、岩崎、渋谷家などが廻船業を営む。
18世紀中頃 奥藤家は北国、西国を市場とする米問屋として活躍。
18世紀後期 坂越港に多くの船が入港。町は活気に満ちていた。

1790～1830年

北前船の台頭により、瀬戸内海の廻船が北国海運の主導権を北陸地方の廻船業者に奪われる。

1830年 奥藤家が赤穂塩を江戸で販売。坂越廻船は塩廻船として生き残る。
1905年 塩専売制の実施。坂越の塩廻船は幕を閉じる。

★狭義の北前船(北陸の船主)と塩廻船の位置づけ。
★北前船を地域振興に活かしたい民間の想いと実態の齟齬。

赤穂市の日本遺産「北前船」

兵庫県赤穂市坂越は、瀬戸内海に面したまち。弧を描く特徴的な地形の坂越湾と、湾内に浮かぶ生島によって、天然の良港として古くから栄えました。平成30年5月には、日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落」の構成文化財として坂越の文化財が追加認定されました。



坂越のまちなみ

北前船の寄港地の町並み。海に向かう「大道」にそって廻船業者・寺院・浦会所が軒を連ねた町並みが残されている。



旧坂越浦会所

北前船寄港地・坂越浦の船舶管理を行っていた会所。



大避神社奉納物

廻船業者が航海安全を祈願して奉納した船絵馬・石造物（灯笼・鳥居など）等。

北前船KITAMAE公式サイトより

様々な北前船

- **北前船主の出身地** 北陸、東北、山陰、瀬戸内海など**広範囲**に分布。**場所請負人**の北前交易も含む。
- **北前船の呼称** 大阪・瀬戸内海の人たちが日本海方面に向かう船や船乗りを「北前」と呼んだ。各地に地域呼称あり。「千石船」「バイ船」など。北海道では「弁財船」「大和船」。
- **北前船の船型** 18世紀初頭から**弁財船**が主流に。北前船の代名詞。明治期には**西洋型帆船**、**合の子船**、**汽船**が登場。北前船主は様々な船を駆使していたことが特徴。

★「北前船」は特定の船型ではなく、**運航形態を指す。**

北前船の地域呼称

石川:ベザイ船、千石船、ホマエ、ホマエセン

福井:ドウバラガキ

富山:バイ船

新潟:回船

兵庫:千石船、渡海船、弁天船、小廻し

北海道:ベザイ船、大和船



厚田村史紀要
『弁財船』(1972年)

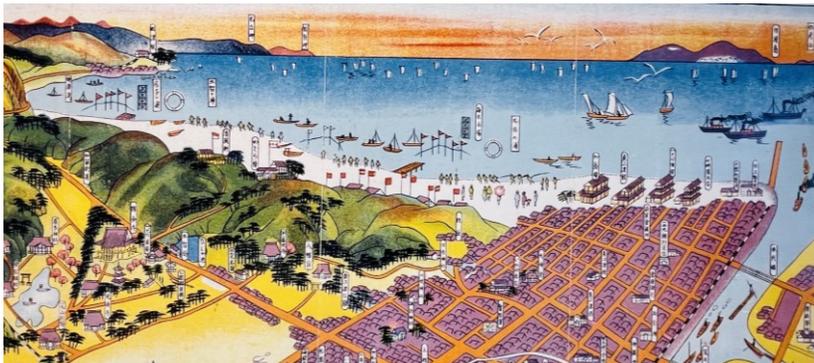
- 「ベザイ船」=「弁才船」の船型に由来。
- 「バイ船」=利益が「倍」になることに由来。

★その地域の「北前船」認識の特徴が現れている。

★各地の「北前船」の共通性と特徴を把握することが重要。

直江津の鳥瞰図(大正14年・1925年発行)

「日本海名勝直江津五智遊覧案内」(上越市歴史博物館蔵)



- ★近代の直江津を一望。沖に蒸気船と和船が行き交う。
- ★近代以降も直江津は航路と鉄路の結節点として発展。
- ★郷津は船の風よけの適地。冬囲いに利用。鬼舞、今町、越中、岩見などの船も確認。明治26年に小樽に本店を設置した伊藤家の船も。

弁財船(北前型弁財船)



八幡丸(福井県河野村・右近家・1357石)の船模型。

『図説福井県史 近世』より

17世紀末(元禄期)に瀬戸内海で登場。18世紀はじめに北前船交易の主流となる。

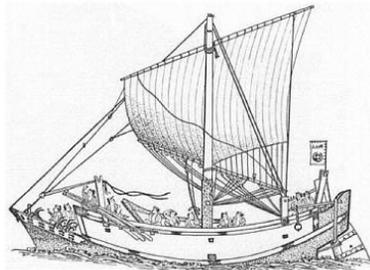
航という厚い船底材の上に厚い外板をつけ、内側には多くの船梁を入れる。船首の反りが強い。

19世紀後半(天保期)、蝦夷地の出港税を軽減するため船首・船尾のそりを強くし、肩幅や深さを小さくしてすんぐりした北前型弁才船となる。

明治になると政府は、海難が多いとして、明治18(1885)年、500石以上の和船建造を禁止とする。

北国船とハガセ船

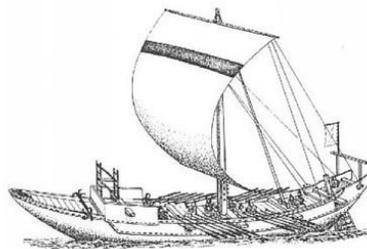
ハガセ船



- ・800石くらいの中型船。
- ・船首が鋭く反る。船底は浅く、帆は短いむしろ帆。帆と櫂を併用。
- ・越前や若狭で多用された。
- ・漕ぎ手が弁才船の倍必要なため18世紀中頃に使用されなくなる。

『日本海の商船 北前船とそのふる里』(牧野隆信、1985年)より

北国船



- ・帆と櫂の両方を用いる千石船級の大船。船首は丸い。
- ・漕ぎ手が20人近く必要。
- ・漕ぎ手の経費がかさみ18世紀末にはほとんど使用されなくなる。

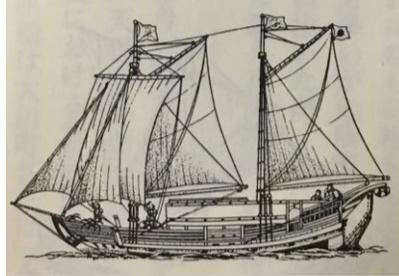
西洋型帆船と合の子船

西洋型帆船



- ・西洋の技術で作られた複数の帆を持つ船。帆柱を2本にしたスクナー式など様々な船型がある。
- ・和船と比べ価格が高い。

合の子船

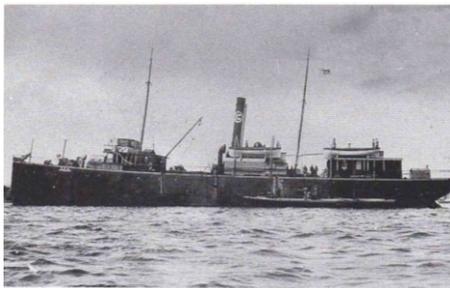


- ・西洋型と日本型の折衷型の船の総称。帆を西洋式に変更。
- ・明治30年代には和船の船体に2本マストの帆装のものが登場。

★明治政府は和船を禁止し西洋型に切り替えさせようとしたが、和船は性能がよく安価で、西洋式の帆を採り入れた合の子船が昭和初期まで活躍。

『日本海の商船 北前船とそのふる里』(牧野隆信、1985年)より

汽船



蒸気船「生玉丸」(加賀・西出家)

北前船主たちは、明治中期になると自分で大型汽船を所有して汽船運賃積経営に乗り出す。

汽船運賃積とともに従来の帆船買積も並行して行う船主が多かった。

北海道に進出した北前船主は所有漁場への物資輸送に汽船を活用した。

『日本海の商船 北前船とそのふる里』(牧野隆信、1985年)より

北前船主と汽船

明治27年北海道入港汽船船主別内訳

種別	船主	船数	小樽寄港	延トン数	函館寄港	延トン数	日本遺産
北前船主	広海二三郎	5	95	48,993	28	20,661	○
	大家七平	3	42	18,862	9	3,979	○
	西谷庄八	2	120	11,873			○
	右近権左衛門	2	5	6,160	3	4,570	○
	馬場道久	2	84	32,757			
	その他	4	73	35,958	14	3,696	
会社	日本郵船	72	178	325,940	1,138	1,052,513	
	大阪商船	4	29	9,736			

*『北海道庁勤業年報 第9回』(明治27年度)を元に作成。

33

(2)北前船の活動

北前船の活動期間。江戸時代中期～明治30年代まで？

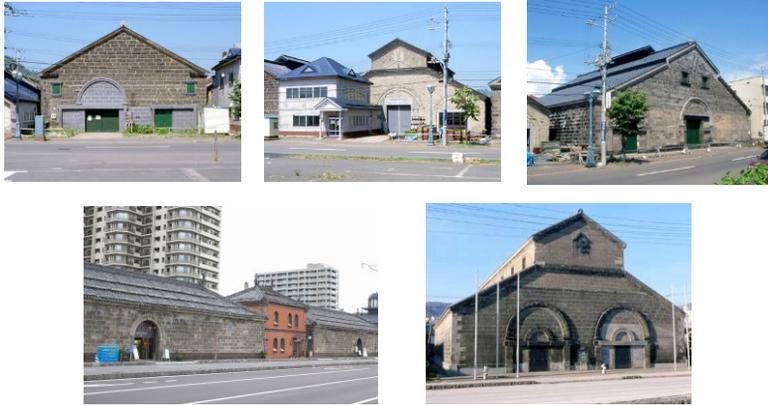
- 幕末には、大坂周辺の商品需要が高まり、物貨が高騰。北海道、東北・北陸と大坂との地域間価格産が拡大。
- 明治以降、鉄道網・定期汽船網など交通網の発達とともに地域間価格産は縮小したが、最後まで大きな地域間価格産が残されたのが北前船航路。明治30年代に買積交易は衰退傾向となるが、その後も長く継続。
- 多くの北前船主が北海道へ進出。開拓期に人口が急増。本州・四国向けの北海道産魚肥の生産も増える。

★北前船は北海道へ移民した人々の生活物資を運ぶ。

★漁場経営、営業倉庫業、精米業等、新ビジネスに進出。

★明治前半は北前船の最盛期。北前船の近代性に注目。

小樽市の特徴的な文化財(旧北浜地区倉庫群)



- ・旧広海倉庫(明治22年) 石川県(瀬越)
- ・旧小樽倉庫(明治23-27年) 石川県(橋立)
- ・旧大家倉庫(明治24年) 石川県(瀬越)
- ・旧右近倉庫(明治27年) 福井県(河野)
- ・旧増田倉庫(明治36年) 石川県(橋立)

- ・北前船主たちが**営業用倉庫**として建造した大規模な倉庫群。
- ・小樽の**特徴的な景観**を形成。店舗等に**活用**され**観光資源**となる。
- ・**北陸の北前船主との強いつながり**を示す文化財。

35

北前船主の所得(明治31年・1898年)

業種	年収
温泉旅館	326円
呉服商	400円
医者	800円
酒造会社	813円
織物工場	956円
北前船主(西出家)	3,293円
北前船主(大家家)	26,500円

石川県小松税務署管内所得票(明治31年・1898年)